

令和6年1月22日

保護者様

北九州市立足立小学校
校長 上嶋 弘幸

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	学習指導要領の3つの領域の中では、「書くこと」の領域が、全国との正答率とほぼ同じで高かったです。「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域が全国より低かったです。必要なことを質問したり、話し手が何を伝えたいのかを聞き取ったりすること、文章を読んで、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られました。
算数	学習指導要領の5つの領域の中では、どの領域も全国との正答率より低かったです。特に「図形」や「変化と関係」「データの活用」の領域に課題が多く見られました。「台形」や「正三角形」などの四角形や三角形の意味や性質、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断する問題に課題が見られました。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
【成果】 ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「先生は理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っています。本校で重点化して取り組んでいる週5回のチャレンジタイム（補充学習）や給食時間に全校放送している「わたしが見かけたちょっといい話」など、認め合う子どもの育成への取組がよい影響を及ぼしていると考えられます。 ・「PC・タブレットなどのICT機器を積極的に使っている」「ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っています。3年生以上の児童が、週3回のタブレットを活用した計算問題に取り組んだり、空き時間を利用してドリルアプリに積極的に取り組んだりしている成果だと考えられます。
【課題】 ・「算数の勉強が好き」と回答した児童が少ないのに対し、「算数の学習は大切である」と回答した児童が多いことから、今後も基礎的な内容がしっかりと身に付くよう授業改善や補充学習を進め、算数科を中心に、全学級複数教諭による指導体制を整えていくことが課題です。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていない」と回答した児童が多かったです。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、資料を読んで分かったことをもとに、考えをまとめたりする力を育成するため、授業においてICT機器を有効活用しながら、自分の考えを話したり友達の考えにふれたりする機会を積極的に増やしていきます。
- ・算数科・国語科を中心に基礎的な内容がしっかりと身に付くよう、複数教諭による指導体制を整え、補充学習を継続していきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・規則的で健康な毎日をご過ごすように、学級通信や学校だより、保健だよりで就寝時間やスマホやゲームの使用時間などを呼びかけ、生活習慣を見直すよう啓発していきます。
- ・子ども達が家庭学習に計画的に取り組めるよう、音読やプリント等の課題以外にも自主学習に進んで取り組めるよう指導していきます。